

研究主題

複式学級における「わたり」「ずらし」授業の工夫 ～子どもの自学の力を促す「八木山スタンダード」の工夫を通して～

1. 主題設定の理由

学校教育目標を「自律心と思いやりの心を持ち、志を立てて意欲的に学ぶ、たくましい八木山っ子の育成」とし、地域から信頼され、地域の核となる学校を目指しています。また、一人ひとりの人権を尊重し、意欲的で活気ある児童を育成することを目指しています。

小規模校である本校では、人数だけでいうと、一人ひとりに応じたきめ細やかな指導を実現することが可能です。しかし、複式学級であるということから、担任は1時間の授業の中で、2学年を「わたり」、2学年の1時間の授業を、教師が「直接指導」と「間接指導」にわけて「ずらし」を進めていく必要があります。この「わたり授業」を円滑に進めていくためには、「児童に自学（自ら主体的に学ぶ。）の力を付けること」「自学をさせるときの基本パターン（スタンダード）を作成すること」の両輪が必要であると考えています。

2. 主題及び副主題の意味

(1) 主題「わたり」「ずらし」とは

「わたり」とは

複式学級の学習指導において、一人の教師が2つの学年の学習を成立させていくために、1単位時間（45分）の学習過程の中で「直接指導」と「間接指導」のバランスを取りながら、両方の学年を交互に移動して指導を行う、教師の動きを意味しています。

「ずらし」とは

複式学級の学習指導において、学年別指導を効率よく進めていくために、教科や学習内容に応じて両学年の学習段階をずらして組み合わせ、児童への「直接指導」と「間接指導」によって学習を行う方法を「ずらし」といいます。

(2) 副主題「八木山スタンダード」とは

八木山スタンダードとは

八木山小学校の実態に合わせた学習過程の基本パターン（「直接指導」と「間接指導」の組み合わせ方）を「八木山スタンダード」と呼びます。教師の実践を通して、八木山小学校らしい学習過程や「間接指導」の仕方を探っていくものです。

3. 研究の目標

「複式学級における『わたり』『ずらし』授業の工夫について研究する。」ことを目標に進めています。

【めざす児童の姿】

	1・2年	3・4年	5・6年
学習への 取り組み方	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の約束を守り、意欲的に学習に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の仕方や進め方が分かり、意欲的に学習に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分から見通しをもって学習計画を立て、主体的に学習に取り組むことができる。
学習準備	<ul style="list-style-type: none"> 次の時間の学習用具を準備しておくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間になったら、進んで前時の復習をしたり、本時に学習することを考えたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時のまとめをおさえ、本時の自分の学習課題を明確に持つことができる。
発表の仕方	<ul style="list-style-type: none"> 指名されたら返事をして、語尾まではっきりと話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 要点を絞り、声の大きさや話す速さに気をつけて話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 筋道を立てて、相手にわかりやすく話すことができる。
聞き方	<ul style="list-style-type: none"> 話す人の方を見て、終わりまで聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 質問したり、よく考えて聞いたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話の要点を聞き取り、自分の考えとの相違点に気づくことができる。
リーダー	<ul style="list-style-type: none"> 学習進行表を見て、大まかな学習内容がわかる。 簡単な司会ができるようになる。 公平に指名することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習進行表を見ながら、学習を進めることができる。 公平に指名しながら、意見をまとめようとすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習進行表を見て、学習の流れがわかるとともに、目的をもって学習を進めることができる。 公平に指名しながら、意見をまとめることができる。
「間接指導」 場面における リーダー 学習	<ul style="list-style-type: none"> リーダーの司会のもとに、順番に発表しあうことができる。 簡単な問題とその答え合わせができる。 	<ul style="list-style-type: none"> リーダーの司会のもとに、順番に発表したり、それに対しての意見を言ったり、質問したりしながら、話し合いを進めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちの発表との相違点に気づき、話し合った結果をまとめることができる。

4. 研究の仮説

複式学級の学習活動において、学習過程の工夫や「間接指導」を行う場面での学習内容を工夫して行うことにより、子どもたちは自学の力を付け、主体的に学習に取り組むようになるであろう。

- ① 児童の自学の力を育成するために、「わたり」「ずらし」授業についての学習の進め方（指導過程）のスタンダードを作成する。
- ② 「間接指導」場面での学習内容を工夫する。「間接指導」の場面では、児童に主体的な学習を進めさせていくために、「直接指導」をしている時に指導する。

児童一人ひとりに活動させるための準備

- 一人ひとりに応じたプリント
- ヒントカード
- コンピュータ等の機器
- 図鑑などの関係図書
- 教材・教具
- 小黒板、発表ボード等

一人ひとりの児童に応じた指導

- 終わったらどうするのか
- 困ったらどうするのか
- 何にまとめるのか
- どのようにまとめるのか
- 一人で考えるのか、共同で考えるのか

リーダー学習を進めるときの準備や手立て

- 話し合いの進め方のモデルの提示
- 学習進行表やタイマーなどの準備
- 発表ボード、プリントなどの自分の意見をまとめるものの準備

- ③ 本年度は、「飯塚市学校教育プラン 30」の1つである「主体的・対話的で深い学びを実現する『知識構成型シグソー法』による協調学習の推進」を、少人数の複式学習の中で、どのように実現させていくかについても、研究を進める。